

# 森のキャンパスから

第3号

発行日 2014年10月15日

## 自然派の国際交流は森のなかで

留学生と日本人学生の交流キャンプを主催するCIECの大谷協子さんから寄稿頂きました。

この通信は、千刈キャンプとこの森を愛する皆さんとを結ぶ接点となることを願って生まれました。主に次のような方々へお届けしています。

- ご利用団体
- 関西学院の在学生や保護者
- 千刈キャンプのサポーター
- 関西学院の各部課
- 千刈キャンプのスタッフと名刺交換させて頂いた方々



### ●●●●●●●●●● 主な目次:

幼稚園や保育園、そして子育てグループも「森の時間」を楽しんでいます	2
千刈キャンプの草木と遊ぶ	2
ツリーングクワイマー(T-1) 講座開催しました	3
リーダーズボイス	3
お知らせ ・たき火カフェ その他の事業	4

国際連携機構(CIEC)では、昨年から学内の国際交流の機会を増やすべく、学部新入生の外国人留学生と、2年生以上の日本人学生を主に対象とした国際交流イベントを、定期的に開催しています。

その中でも、『友情キャンプ in 千刈』(写真)と称し、1泊2日で行うキャンプでは、千刈スタッフが提供する「セルフビルドプログラム」を毎回メインアクティビティとして位置づけています。

このプログラムは、次々と現れる課題に、チームワークで克服していくという、一見シンプルな内容です。しかし、友情キャンプでは、国籍や慣習、言語までも違う状態で取り組むため、当然スムーズにはいきません。様々な困難を試行錯誤で乗り越え、ゴールした瞬間の歓喜の渦は、CIECスタッフにも形容し難いほどの感動をもたらしてくれます。

近年、SNS(facebookやtwitter等)やオンラインゲーム等を通じて簡単に他者につながる事ができる反面、実生活ではどのように会話をしているかわからない、人との距離をどうとっていいかわからない、といった声が学生の中からも聞かれます。CIECがセルフビルドプログラムを活用するのは、課題の克服に必要なものは、オンラインゲームの攻略法でもなければ、タイピングの速さでもなく、個々の考えを目の前にいる相手が理解できるように伝える力であり、それを聞く力であり、共に行動する勇気であると、このプログラムは気付かせてくれるからです。

この気づきが、手を伸ばせば掴める国際交流のきっかけとなると信じ、また来年もたくさんの方の学生と共に、御世話になります！(CIEC大谷協子さん)

【写真は2014年度開催プログラムから】

## 幼稚園や保育園、そして子育てグループも「森の時間」を楽しんでいます

千刈キャンプでは「お泊り保育」と呼ばれる一般の幼稚園や保育園の宿泊利用もあり、特に7月中旬は沢山の子どもたちで賑わいます。

日中は森の探検、ザリガニつりや自然の素材を使った工作など、また夜はキャンプファイアーが定番プログラムですが、千刈で一番の人気は何と言っても千刈リーダーの存在です。

小さい子どもはお兄さんやお姉さんが大好き。工作や野外ゲーム、そしてキャンプファイアーなど色々な場面で手助けしてくれる大学生のリーダーとの触れ合いは千刈キャンプの思い出の中でもとても印象深いものとなっているようです。

9月に初めてご利用になった「宝塚ひよこ保育園(宝塚市)」からは、「施設全体を見て保育園が目指すもの」と一致することが多いと感じました。そのまま残された自然の中で一日を過ごすことができ、野外炊事、山の探検、入浴、午睡、キャンプファイアーの取り組みをすべて経験することができました。特にノースリーダーとゼブラリーダー(学生リーダー)には本当にお世話になりました。キャンプファイアーは2人の学生リーダーで精一杯盛り上げていただき、子どもたちの目の輝きはすごかったです。今後、年間を通じて利用させていただきたいと思います」と高い評価を頂きました。

また、夏以外の季節での日帰り利用が増えてきたのが、ここ数年の新しい動きです。幼稚園や保育園だけでなく、

地元三田市などからも子育てサークルなどが定期的に来られるようになってきました。

秋からのご利用のお目当ては「たき火」。街ではたき火を今ではほとんどできなくなりました。落ち葉をたくさん集めることができる千刈のたき火は、秋冬の森遊びに最適。サツマイモ持参で来られる園も少なくありません。大人も子どもも、森で暖かい火を存分に楽しんで帰られます。

たき火ができることは、公園施設などではなかなかできない、この森の強みの一つだと思います。そして事前申し込み制なので来場者の顔が見える場だというのも安心材料となっています。それらに加えて、研修室、食堂やお風呂といったセンター棟のハード面や学生リーダーと野外教育の専門指導者などのソフト面をさらに生かして、今後も様々な子育て団体やグループにお使いいただきたいと考えています。(益田博)



## 千刈キャンプの草木と遊ぶ【どんぐりこま】 文と絵:松井鴻さん(草木遊び塾主宰)

四季折々、森の小道はいろいろな表情を見せてくれます。なかでも紅葉期の一瞬、なんともいえない満足感にひたることがあります。

千刈にはアベマキ、コナラ、アラカシなどどんぐりのなる木があります。小道に落ちているどんぐりを見つけると、つい拾ってしまいます。

〈どんぐりこま〉

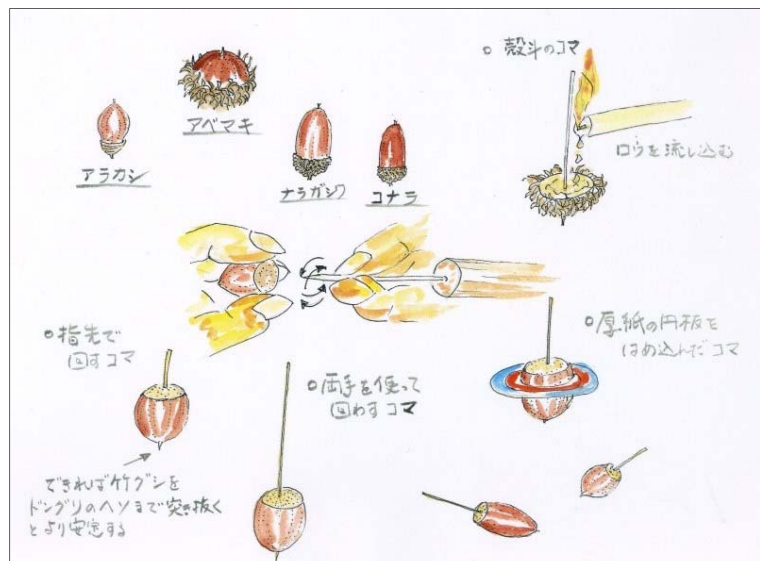
アベマキなどなるべく大きなものを選びます。バランスのとれた丸い形や、どんぐりのヘソが中心にあるのが大事。これというものはなかなか見つからないものです。次にどんぐりの芯に穴をあけます。簡単なようで難しく、あやまって手先を突き刺す事故がよくあります。道具はキリ、千枚どおし、オシピンなどですが、キリがよいでしょう。

図にあるようにどんぐりをしっかり握り締め、キリの先5mmぐらいのところを親指と人差しでしっかり握り穴をあけます。低学年には難しいので大人が代わって下さい。(右図の殻斗のこまは神戸市北区のお年寄りから教わったもの)

〈どんぐりごま大会〉

兵庫県園芸・公園協会主催で毎年県下一

斉に「どんぐりごま大会」が開催されています。今年で第26回だそうです。私も何回か参加しましたが、子どもたちの真剣な顔つきと、いろいろと工夫されたコマには驚きました。1分50秒ぐらいが、最高記録だったと記憶しています。千刈キャンプでも記録表を掲示し、キャンパーに競ってもらうのも楽しいのではないのでしょうか。





## ツリーイング クライマー講習会(T-1講座)開催



9月9日～10日の2日間にわたり、ロープと器具を使って高い木に登る「ツリーイング」の講習会(T-1講座)を開催。これまで冬のイベントとして体験会を開いてきた千刈キャンプでは初めての技術認定講座となりました。

今回は「ツリーマスタークライミングアカデミー」(TMCA)近畿・中国ブロック、社)青空netとの共同で開催しました。

専用に開発された器具を駆使し、また安全を確保しながら登る基本的な技術を学ぶのがT-1講座。同ブロック代表の田中誉人さんらを講師に迎え、普段はテントサイトとなっているコナラの林が講習会場となりました。京都や兵庫から男女計6人が参加し、2日目には体得した技術を使って樹上へ自由に上がれるようになり、普段とは違う森の風景を楽しんでいました。

また、今回は車いすの男性も参加され、日本初のTMCA公認クライマーが誕生するという記念すべき講習会となりました。

ツリーイングとは、木への影響を最小限に抑えながら安全に高く登り、樹上での様々な活動を可能とする技術で1980年代に米国などで誕生。日本ではTMCAが指導者育成や普及活動に取り組んでいます。

千刈キャンプでは今後も秋冬を中心に、体験会や講習会を開く予定です。ぜひご参加ください。

## リーダーズボイス ～ 千刈リーダーの声をお届けします ～

こんにちは！文学部3年生の中谷雄介(2014年度ヘッドチーフ)です。今回はこの活動を通して得たこと、感じたことについて述べてみたいと思います。

千刈キャンプには様々なお客さん(私たちは「キャンパーさん」と呼んでいます)がいらっしやいます。幼稚園や、教会学校、大学のゼミやサークルなども利用されています。

これらの方々のキャンプをサポートしていく中で、どうすればキャンパーさんに楽しんでもいただけるか、どうすれば満足していただけるか、ということを個々人がいつも考えて活動して

います。部員間でも今までのやり方に固執するのではなく、より良い方法を考え話し合い、模索しています。

みなが真剣に取り組んでいるため、ぶつかってもありますが、全員で協力して活動を良いものにしていけることに、私はとても魅力を感じています。

キャンパーさんにとってキャンプは、1年に1回、数年に1回、もしくはそれで最後のキャンプかもしれません。その「1回のキャンプ」

を心に残る良い思い出にすることができるように、これからも最善を尽くしていきたいと思っています。



## 秋冬こそ千刈キャンプは楽しい

こんにちは。千刈キャンププログラムスタッフの森本崇資(ナック)です。  
朝晩の気温が季節の移り変わりを感じさせてくれる今日この頃、みなさんどうお過ごしですか？ここ千刈キャンプでは、日中の気温の高さとは正反対に、朝は夜露がおり始め、夕方は日が沈むと一気に気温が下がり、長袖を着ておかないと寒いほどになりました。

そんなときにこそ私が恋しくなるのが「たき火」。家庭のガスコンロではなく、オール電化でもなく、「本物の火」に触れるチャンスです。今年もあのイベントを開催します。秋冬限定の「焚き火カフェ」！たき火を囲んでダッチオープン料理・本格石窯ピザなどをたのしみませんか？各回募集は15名ほど。森の中をゆったり楽しんでいただければとおもいます。天気が良ければハンモックもはりますので、そこでのんびりしていただいてもOKです。

いくつかの家族で申し込みとなると、一気に予約が埋まりますので、お早めにご連絡ください。



○ 年内の主な事業(2014年10月現在の予定です。詳しくはお問い合わせください)

事業名	日程	内容
オータムフェスティバル	2014年11月22日(土)	千刈リーダーOBOGのホームカミングデー
リトリート at 千刈	2014年11月29日(土) ～11月30日(日)	関西学院に連なる人々を対象にした1泊2日のリトリート。関西学院宗教活動委員会の主催。
千刈いきもの探検隊	2014年12月7日(日)	関西学院大学教育学部湊研究室との協働企画。教育学部生と一緒に冬の生き物を探します。
冬のぼかぼかキャンプ	2014年12月14日(日)	小学生対象のディキャンプ。寒さにまげずに一日たっぷりリーダーと遊びます。



## ここも関学 千刈キャンプは森のキャンパスです

私たちが目指すのは「森のキャンパス」です。約8万㎡の里山の自然と約150人までの宿泊研修機能に加え、指導スタッフが常駐するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持っているのが千刈キャンプの特色のひとつです。自然の中で時間に縛られない生活空間を共有することで、研究はもちろん、学生とのコミュニケーションも深まるでしょう。また、環境やリーダーシップなど実践的な教育活動の展開が可能です。学内だけでなく学外にも開かれた場として、教会・幼稚園・学校・生涯学習など一般の団体グループの方々にもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

関西学院千刈キャンプ 〒669-1507 兵庫県三田市香下1817-1

電話 079(563)5233 FAX 079(563)5235

Email: [campsengari@kwansei.ac.jp](mailto:campsengari@kwansei.ac.jp)

website [http://www.kwansei.ac.jp/f\\_sengari/index.html](http://www.kwansei.ac.jp/f_sengari/index.html)

facebook <http://www.facebook.com/CampSengari>

つづろき 秋が深まり静かな千刈の日々が戻ってきました。自然の大いなる力に怖さを覚える一方で、紅葉がすすむ森に癒しを感じます。彩り鮮やかな千刈にぜひお越し下さい。(益)